

平成22年11月20日

浜田市議会議長
牛尾博美 様

報告者 原田義則

会派視察報告書

下記の通り視察を行いましたので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成22年11月9日(火)～11月11日まで(木)
2. 視察先 和歌山県田辺市秋津野
3. 参加者 美浦美樹、中村建二、山田義喜、田村友行、平石誠、原田義則
4. 調査の概要

(1) 小学校の廃校校舎を活用した地域振興について

5. 田辺市秋津野の概要とご指導頂いた方

古くから美味しいみかんの産地として知られる、田辺市上秋津地区はかつて秋津野と呼ばれており、田辺市のシンボル高尾山の山裾一帯に拓かれた古い歴史を持ち、気候に恵まれ40種類以上もの、みかんができ高品質の紀州南高梅やスモモ類も産出され、地域づくりの分野でも全国的に注目を浴びているところです。

その、秋津野の自然と親しみ、里山で営まれているいろいろな体験を、楽しみながら学び民泊し、地元の人たちとの触れ合いを通じて、心に残る体験もすることができ、その地域の特性を活かした総合的な農村、漁村体験プランも用意されています。

・田辺市の市勢(平成22年3月31日現在)

人口 81,938人

面積 1,026キロ㎡

地形 平野が少なく森林面積が917キロ㎡と全体の9割を占めている。

市職員定数 940人(実数876人) (平成22年4月1日現在)

議員定数(条例定数) 26人

・ご指導頂いた方

田辺市議会事務局

局長 中瀬政男

局員 松本美弥子

産業部農業振興課

農政係長 木村博光

秋津野ガルテン

代表取締役副社長

玉井常貴



(秋津野ガルテンに変貌した旧上秋津小学校)



6. 視察項目

- ・ガルテン、農産物直売所きてら設立と地域振興について

(1) 地区の状況

浜田市で云えば周布地区のような地帯で、都市部からの移転、奥部からの転居により、この地域の人口は増加傾向にあり又、児童生徒数も増加傾向にある地帯で、既存の小学校木造校舎では手狭で移転新築されたために廃校になったものである。

(2) 事業化の経緯について

地域づくりが活発な上秋津そこには半世紀に及ぶ地域づくりの積み重ねがあったようです。昭和32年和歌山で初めての、社団法人「愛郷会」が設立されています。愛郷会とは村の共有財産を管理する組織で、得られた収益は個人に分配せず地域全体の公益のためにだけ使うことを決め、今まで教育振興、住民福祉、環境保全に財政面で支援するなど大きな役割を果たしています。平成元年、地元有志らで上秋津を考える会が、結成され積極的に交流イベントなどが行われ住民同志の交流が深まり、地域のつながりが強まっていったようです。

そしてイベントや地域の課題について住民自らが考えるようになり、自分たち一人一人が地域づくりの、主役だと云う意識につながり地域がどんどん盛り上がっていき平成11年には、秋津野きてらが、オープンしています。

きてらは、地域住民の出資による農産物直売所で、地域に雇用やお金を生みだしています。ガルテンの設立もマスタープランにある都市と農村の交流を具現化するものであり小学校の移転に伴い旧校舎の取り壊し計画が持ち上がった時住民が立ち上がり、平成15年に旧校舎活用検討委員会を立ち上げ、ここを愛郷会が買い取り、グリーンツーリズム施設として活用することが提案され、2棟の校舎は取り壊しその跡地に、農家レストラン、宿泊棟、パン工房が新築され、既存の校舎の改装、改造は行われていない。国、県、市の補助金を活用して整備がされている。旧校舎の改造がされていないのは新築した方が経費が縮減されると判断されたためである。当初は反対意見も多くあったようですが議論の末、平成19年489名の方が出資してガルテンを運営する農業法人秋津野が発足し、ついに平成20年11月に秋津野ガルテンが誕生しています。この成功のうらには愛郷会の大きなはたらきがあったものと推測します。

尚、玉井副社長から伺った説明の中で参考になった点を列挙しておきます。

1. グリーンツーリズムは、中山間地を救う事業、行政のしっかりしたビジョンが必要。
2. 全国の廃校を視察し、木造校舎の活用では、さんさん館、鉄筋校舎では徳島県勝浦町が参考になった。

3. 色々な体験を与えることが重要。体験を受け入れる農家づくりが大切。
4. 地域振興話し合う場合、地域住民だけでなく、広く外部の人材を入れる。

(3) 事業費等について

◎農村漁村活性化プロジェクト支援交付金事業

- ・ **事業名** 田辺市都市農村交流促進施設整備事業費補助金（上秋津地区）
- ・ **事業実施年度** 平成19. 20年度
- ・ **事業主体** 株式会社 秋津野（地元農家を中心に本事業のために設立）
 資本金 3,330万円 出資者数 398名
- ・ **事業目的** 上秋津地域の農村が持つ自然環境、景観、文化など多様な地域資源を有効に活用し、都市住民のグリーン・ツーリズムなど農業体験の拠点、こどもたちの食育の場及び、団塊の世帯等の田舎暮らしの受け入れ等を目的とした長期滞在型拠点として、交流施設や宿泊施設を整備し、上秋津地区での農村と都市住民との交流を深めることにより、入込客数の増加を促進する中で、農産物の地産地消の推進及び販路拡大を図り、将来的にも持続可能な農業形態を確立し、農をテーマとした交流活動により地域経済の活性化を図る。
- ・ **事業内容** 体験交流施設 1棟 農家レストラン 1棟 宿泊施設 1棟
 交付対象事業費 104,505,222円
 財源内訳（国50% 県12,5% 市12,5% 地元25%）
 補助対象外事業
 - ・ 市民農園 合計70区画（1区画 30㎡）
 年間利用料 30,000円
 - ・ オーナー樹 みかん700本 梅50本
 年間利用料 1本あたり 20,000円
- ・ **用地について** 上秋津愛郷会が市から約4,500万円で旧学校用地を購入。併せて、愛郷会所有のプール用地と市所有の旧学校用地を交換（約5,500万円相当）。合計約1億円相当の土地を（株）秋津野が上秋津愛郷会から借り受けている。



（田辺市役所産業部振興課木村博充係長）



（秋津野ガルテンの取組についてご指導頂いた玉井常貴代表取締役副社長）

7. 視察経費

項	目	金	額	備	考
レンタカー	借上げ料	60,000		浜田レンタカー	
燃	料	18,725		別紙のとおり	
高	速	18,600		別紙のとおり	
講	師	10,000		秋津野ガルテン	
会	場	3,000		秋津野ガルテン	
資	料	1,800		秋津野ガルテン	
宿	泊	42,000		秋津野ガルテン	
宿	泊	40,950		田辺市シティホテル	
合	計	195,075			

195,075 ÷ 6人 = 32,512円 1人当たり経費



8. 終りのことば (ご指導頂いた中瀬政男議会事務局長、局員の松本美弥子様)

少子化の進行によって小学校の統廃校は避けられない状況になっており、一抹の寂しさを感じています。地域の象徴、心のよりどころであり文化の殿堂でもあった、校舎をいかに活用するかについては、その地域の大きな課題である。今後自治会等を中心に地域で何ができるのか、どのように地区外の人に地域をアピールするか等々、地域で徹底した話し合いを通じ貴重な財産を、今後も継続的に有効活用できる事業に是非とも取り組む必要がある。